

リモートワーク拠点増

集中できる / 勉強の場に 多様な使い方、県も後押し

県内でリモートワークに対応した施設が増加している。県内企業などが新型コロナウイルスの感染拡大により需要が高まるとみて、整備を進めている。県も移住促進の足掛かりにしようと補助金を交付するなどして後押ししてきた。首都圏からの施設利用者も徐々に始まっており、県内でも新たな仕事のスタイルが広がりつつある。(五十川り)

今月上旬の暑すぎ、秋田駅 福嶋勝浩さん(56)は、今月から直結のリモートオフィス「アトリエ アルヴェ」の利用を始めた。10月をめどにシステム開発を手掛けるグループ会社をアトリエに開設する予定で準備を進めている。

アトリエは秋田拠点センター・アルヴェの運営会社「秋田新都心ビル」が今年3月に開設した。総事業費約8千万円のうち、2500万円は県の補助金を活用。交流スペースのほか、貸しオフィス5部屋を用意している。オフィスは広さに応じて月額10万2080〜15万4千円で貸し出ししており、現在は満室だ。

東京の情報サービス会社「パスカル」で社長を務める会社では地元若い人材を探していると感じた。秋田に置くリモートワークの推進に力を入れたいと語った。

県内のリモートワーク対応施設

秋田市	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジオフィスあきた シェアオフィス mag リージャス秋田駅前ビジネスセンター ヤマキウ南倉庫 GALLERIA大町 コワーキングスペース SHARE DREAM BASE アトリエ アルヴェ Newテラス広小路
大館市	<ul style="list-style-type: none"> 五色湖ロッジ ペニヤマ自然パーク MARUWWA MARUWWAニコメ 東光雪沢テクノパーク
北秋田市	<ul style="list-style-type: none"> community station KITAKITA TANOC(今年中に運用開始予定)
鹿角市	<ul style="list-style-type: none"> 鹿角市まちなかオフィス
由利本荘市	<ul style="list-style-type: none"> 本荘由利産学共同研究センター
にかほ市	<ul style="list-style-type: none"> わかばにかほ
大仙市	<ul style="list-style-type: none"> Shared office cozy
仙北市	<ul style="list-style-type: none"> Semboku Workplex
湯沢市	<ul style="list-style-type: none"> ロイヤルパソコンシステム
小坂町	<ul style="list-style-type: none"> 七滝活性化拠点センター
五城目町	<ul style="list-style-type: none"> 五城目町地域活性化支援センター (BABAMEBASE)

※県のホームページを基に作成

和室やソファでリラックスして仕事をする会社員ら「アトリエ アルヴェ」



コワーキングスペースで勉強する学生＝ヤマキウ南倉庫

ワーケーション対応も

県のまごめでは、リモートワーク対応施設は23施設(8日時点)あり、このうち秋田市への立地が約3割を占めている。シェアオフィスや会議室のほか、利用者が交流できるスペースやキッチンを備えた施設もある。

県内23施設

り、多様な使い方を想定している。また、キャンプ場や宿泊施設の一部にWiFi(ワイファイ)を完備し、観光しながら仕事を進める「ワーケーション」に対応した施設もある。

県移住・定住促進課の担当者「コロナ収束後は、県外からの旅行者や出張者による利用がより広まることを期待している。本県でリモートワークを実践してもらい、最終的には人の呼び込みにつなげたい」と話した。

秋田市千秋明徳町の「Newテラス広小路」は5月にオープン。先月下旬、個人向けの「コワーキングスペース」を会った。石橋朋子さん(40)が利用した。石橋さんは秋田市在住だが大阪の人材紹介会社に籍を置き、人事採用部門の仕事を担当。日頃から自宅でリモートワークをしていると、秋田市の「アトリエ アルヴェ」が利用できる。市内の他の施設も使ってみようという。子どもが在宅していたため、初めて利用したという。普段とは違う環境で集中できる。市内の他の施設も使ってみようという。

学生に人気のリモートワーク対応施設もある。秋田市のデザイン会社「シビシ」が運営する秋田市南通風の町「ヤマキウ南倉庫」の「コワーキングスペース」は、利用者の「ほしい」としている。

©秋田魁新報社